

○薬剤耐性菌に関するワーキンググループ（第22回）（公開）

日時：令和元年9月2日（月）14：00～15：10

議事概要：

- （1）家畜に使用するハロフジノン*ポリスチレンスルホン酸カルシウム（HPS）に係る薬剤耐性菌に関する食品健康影響評価について

審議の結果、

- HPSの鶏への使用によりHPSの重合体構成成分であって生体内で解離して抗菌活性を示すと考えられるハロフジノンに対する耐性菌が選択される可能性は否定できないが、ハロフジノンがヒト用抗菌性物質として使用されていないこと、ヒトに使用されている他の抗菌性物質と構造が異なるため交差耐性が起こる可能性が低いこと、共耐性に関する報告がないこと等から、特定すべきハザードがないと判断した。したがって、HPSを鶏に使用することによって選択された薬剤耐性菌が、食品を介してヒトの健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えた。
- なお、薬剤耐性菌に関する詳細な情報について、現時点では十分とはいえないので、リスク管理機関である農林水産省において引き続き情報の収集に努めるべきと考える。

とすることが了承され、評価書(案)を一部修正の上、食品安全委員会に報告することとなった。

- （2）養殖水産動物に使用する抗菌性物質に係る薬剤耐性菌に関する食品健康影響評価の進め方について

継続審議となった。

* キナゾリンアルカロイドで、飼料添加物として鶏の飼料に使用されています。